

## ナショナル・フラワー

全 277 作品 / 油彩 / 紙 / A5 / 2018

『国華』は1889年に創刊された日本初の日本美術・東洋美術専門誌である。岡倉天心が書いたとされる創刊号発刊の辞は国粹主義プロパガンダ的性格をおびている。「夫れ美術は国の精華なり…国華は国民をして自国の美術を守護するの必要を唱道して止まざらんとす」

創刊の数年前に「日本画」という言葉が出現していた。この言葉は、アーネスト・フェノロサが講演で使った Japanese painting を翻訳するために初めて使われたものだった。フェノロサは西欧美学の基準をあてはめ、洋画と対比することによって、日本画の概念をつくりあげた。洋画が油彩であるのに対して、日本画は水彩であるというように。

日本固有のナショナル・アートをうちたてようとしたこのような19世紀の試みは、今でもその名残を感じさせることがある。ある日、私は、高齢者向けの花のスケッチ練習帳を手に入れた。ページの片側に色刷りされた水彩画をお手本として、もう片側に点線で印刷された同じ絵の輪郭をなぞり色を塗ることで、花の絵を描く練習ができるしくみだ。私は、近代に創出された日本画の系譜が抑圧されてこの練習帳の形をとって現れたものであると勝手に仮定して、練習帳で推奨されている塗り方や点線をまったく無視し、水彩ではなく油絵具で描くことにした。それは、日本画を模倣しつつ対立する行儀の悪い洋画であり、比較によって絵画的アイデンティティをうちたてようとする、私の荒唐無稽な試みである。